

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500595		
法人名	社会福祉法人 光誠会		
事業所名	グループホーム フローラもばら		
所在地	千葉県茂原市谷本1127-1		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・野菜や草花を利用者と育て、食材に使ったり、居室に飾ったりしている。                  ・自立度に応じて出来る事を支援している。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>フローラもばらには、デイサービスが併設しており、行事やレクリエーション等で交流を図っていると共に、食事・外出・緊急時・災害時等の必要時に連携を図っており、柔軟なサービスを提供している。また、施設にて、苦情・給食・レクリエーション・感染症・研修・防災・身体拘束・園芸・外出・給食の委員会を設置しており、サービスの質の向上に向けた検討会や勉強会等が行われている。施設にて、野菜作りや飾りつけ等を入居者と共同で行い、季節感を感じながら楽しみを共有できる活動が行われている。毎年、事業計画にて、方針・目標を策定しており、入居者の生活の充実化に向けたサービスの提供に取り組んでいる。</p>
---

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ユニット会議、リーダー会議等にて話している。	尊厳ある生活・地域との結びつきを主眼とした事業所独自の理念を掲げている。理念においては、事業所内に掲示すると共に、職員会議等にて確認を行ない、周知を図っている。毎年、事業計画にて方針・目標を策定すると同時に、前年度の目標達成状況の確認を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアが定期的に来られたり、長寿クラブによる発表会に参加したり、行事での協力を頂いたりしている。	地域の老人クラブの発表会や福祉会館の行事に参加すると共に、ボランティアや地域住民の来訪等が行なわれ、地域住民や地域団体と相互に行き来する関係が築かれている。また、保育園児の来訪や小中学生の職場体験の受け入れ等を行い、世代間交流も図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の体験学習を受けいれたり、運営推進会議にて認知症の学習を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、長寿クラブ、ボランティア、家族、利用者、職員にて6ヶ月に1回開催している。 事業報告や事業計画の説明を行い、意見を頂いている。	市職員・地域住民・入居者・家族・施設関係者を構成員として、年2回、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動の報告や事業方針の説明等を行い、施設理解の促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。また、行事を同日に開催し、運営推進会議に参加しやすいよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただいたり、利用者等のことで相談したりしている。	市に対して、困難事例や業務における相談を随時行ない、連携を図っている。また、市が主催する福祉センターの行事に招待される等、様々な交流が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、会議等にて皆に話している。 身体拘束委員会でも話し合い検討している。	事業所にて身体拘束委員会を設置しており、マニュアル・方針が整備されていると共に、勉強会や検討会が開催されており、身体拘束排除の取り組みがなされている。施設の玄関は入居者の安全面を配慮し、施錠しているが、希望に応じて開錠しており、入居者の自由な生活に配慮している。	玄関の施錠について、施設の課題として掲げており、様々な創意工夫が図られている。今後も継続的に検討を重ね、入居者の自由を束縛しないケアの実践に向け取り組んで頂く事を期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加。研修報告を全体会議で報告している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、成年後見制度が必要な方には活用して頂けるよう支援した。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に書類を渡し読んで頂いたり、当日詳細に読み合わせ理解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、個別面談を通じて意見伺う。質問等には手紙にて家族に伝えたりもしている。	苦情・相談窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を確認している。家族会を組織しており、懇談会を通じて、家族との意見交換を行っている。また、年1回、家族と面談する機会を設けており、意見・要望を詳しく確認できるよう工夫している。挙げた意見においては、会議にて周知・検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、リーダー会議等にて話し合いを行っている。	全体会議・リーダー会議・ユニット会議等、検討・意見交換をする機会を設けていると共に、管理者は日頃の業務において職員の話聞く機会を設けており、職員の意見の把握に努めている。また、外出・給食・防災・身体拘束等、複数の委員会を設置しており、様々な意見交換・検討会が開催されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	委員会に全員所属し活動を行っている。希望休等聞き働きやすい環境を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修参加後には報告書の作成や、全体会議時に報告会をして、職員間での共有を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会にて、研修会や意見交換が行われている。お互いの夏祭りにも参加し、交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人に見学に来て頂き話を伺ったり、体験入居を行い馴染んでいただけるか様子を観させて頂いている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>電話や、来所時に良くお話を伺うようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>即入居希望で満床により受け入れ不可能な場合、他のグループホームを紹介等している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者が、職員の健康を気遣ってくださり「気をつけて帰りなさいよ。」と声を掛けてくれる。又、生活の知恵、料理、縫い方等教わったりしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と受診されたり、時には外食、外泊と利用者に関わる時間を作って頂いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人の面会や、電話、手紙等の支援をしている。</p>	<p>家族との外泊・外出が可能となっていると共に、馴染みの人の来訪や手紙のやり取り等も自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、行事にて、ボランティア団体や地域の老人クラブとの交流があり、新しい関係作りを支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にて仲の良い者同士話をしたり、食事場所での組み合わせに配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて連絡頂いたりしている。又、パッケージ品の提供して頂いたお礼に、命日にお花を届けたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の希望を聞き取っている。 アセスメントの見直しを行い問題の解決にあたっている。	契約時に、本人・家族の意向・生活歴・身体状況等を聴取し、記録している。入居後は、日頃の生活状況を記録し、会議にて情報交換を行い、本人の意向を把握している。また、年1回、家族との面談を実施しており、意向や要望の確認を行なっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族に聞き取ったり、入居時に用紙に記入して頂いたりして情報を職員が共有しケアに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理はバイタルチェックにて毎日記録し、体調の変化や問題点があれば毎朝の申し送りで伝えている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や面談にて家族の希望や意見を伺い、必要に応じて担当者会議等にて検討している。	会議にて意見交換を行った上で、介護計画を作成している。必要に応じて、本人・家族にも会議に参加してもらい、意向に沿った介護計画の作成に努めている。毎月、介護計画の評価を実施し、必要に応じて随時計画の見直しを実施している。また、介護計画の進行表を独自に作成しており、入居者のニーズや目標の達成状況が確認できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケース記録に記入している。モニタリングにて見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスセンターと連携して、合同レクリエーションを実施している。希望により移動美容室を利用して、身だしなみの支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の友人の得意な菊作りの見学に行き楽しませて頂いている。 又、教会や昔なじみの友人が訪問して下さり、話し相手になって頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診も含め家族の希望により、受診する所を決めている。	希望のかかりつけ医の受診が可能となっており、希望に応じて、職員が付き添いを支援している。また、看護職員により、受診報告が行なわれていると共に、適切な健康管理が行なわれている。協力病院を設置しており、必要時の往診・急な受診に対しての診療・緊急時における連携等、様々な状況に対応できるよう協力体制を構築している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い熱が出たり、体調不良が観られた場合すぐに看護師に報告し、状況によりかかりつけ医と相談したり、受診したりと適切な支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院際には面会に行き病状をきいている。 早期に退院出来る様、事前にリハビリのやり方を教わる。指導の下に退院後実施する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の確認書にて家族に事前に聞いている。 常時医療を必要としない事を条件に家族、医師、職員で担当者会議を行い、ケアプランを作成し看取りを行ったが、緊急時の医師の確保は難しい。	家族から緊急時・終末期における意向や対応方法等を確認し、同意書を交わしている。必要に応じて、終末期・重度化に向けての対応方法の検討や意向の確認を随時行ない、施設として出来る限りの支援が行なえるよう体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部、内部研修や、利用者の状態に合わせて行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いの下、デイサービスセンターと合同の訓練を行う。 グループホームでは、月1回日中、夜間と想定を変えて訓練を行う。又、敷地内にある職員アパートの、職員と連携を取りながら行なっている。	防災頭巾・消火器・誘導灯・火災報知器を設置していると共に、マニュアル・手順書・避難経路等を整備している。施設にて防災委員会を設置しており、毎月、自主的に避難訓練を実施し、災害時に備えている。訓練では、様々なケースを想定した訓練を実施しており、職員・入居者が災害時の対応方法を身に付けている。また、併設デイサービスや職員寮との連携が図られており、災害・緊急時の協力体制が構築されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックやプライバシー等内部研修や全体会議、ユニット会議等を通して職員に話している。	入居者のプライバシー保護や接遇に関しての研修を実施しており、職員は、声掛け・誘導方法・言葉遣い等に細心の注意を払っている。また、居室に鍵が設置されており、入居者のプライバシーを確保している。身体拘束委員会にて入居者の尊厳を守る為の介護方法を指導していると共に、入居者の希望に応じた個別支援を実施しており、その人らしい生活の提供に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日の過ごし方、その日1にちの過ごし方の希望をきいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理のない様本人のペースで過ごしている。その日一日何をしたいか、レクの希望を聞いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により移動美容室にてカット、パーマ、等の支援を行っている。家族と一緒に美容室に行かれる利用者もいる。毎日お化粧される利用者もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の献立を利用者と相談しながら決めている。食器拭き、配膳、盛り付け、食材切りなど出来る事をして頂いている。又、作り方を指導して下さる事もある。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備・片付け等を共同で行っている。献立においては、法人内の栄養士が作成を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。また、施設にて給食委員会が設置されており、季節や希望に応じた献立作りに努めている。外食会や特別食の実施をすると共に、施設敷地内にて、食事会やお茶飲みを行っており、食に対する楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日は法人内の栄養士が作った献立を基に食事を提供している。夏場の食欲のない利用者には、野菜ジュースを飲んで頂いたり、ミキサー食にして提供している利用者もいる。毎食事に摂取量を記入している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	イソジン液にて毎食後うがいや歯みがき、夜間は義歯洗浄の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中紙パンツから布の安心パンツに変更し、トイレに行く回数を多くして頂く。トイレサインを見つけ誘導する。	トイレは十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮している。排泄チェックリストを活用し、入居者の排泄パターンの把握に努めると共に、声掛け・誘導・支援方法の工夫により、できるだけ排泄が自立できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回以上体操を行ったり、隣のユニットまで散歩に行ったり、身体を動かす機会を作っている。牛乳、野菜ジュース、ヤクルト、さつま芋等提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否ある利用者には、時間や日を置いて誘う。	入浴においては、毎日実施しており、希望に応じて回数等柔軟に支援している。浴室は滑り止めマットや暖房が設置されており、入居者の安全面に配慮している。また、必要に応じて足浴・清拭等を実施すると共に、シャワートイレの活用により、入居者の清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間まで利用者同士テレビを観たり、会話を楽しまれたりゆっくり過ごされる。居室にてテレビを観ながら休まれる利用者もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がいる為日常の健康管理を行っている。又、看護師が、各自の薬ファイルを管理しており、いつでも見れる様になっている。服薬法や薬の説明もきちんと指導している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、草花の手入れ、縫い物、料理、買い物等出来る事を支援している。家族と外出時アイスクリームを買われ、好きな時に食べる利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・利用者の誕生日にどの様に過ごしたいか希望を聞いて、家族と外食を希望される利用者には、ご家族にお話し、支援していただいている。 ・天気の良い日や希望によりドライブ等に出かけている。また、可能な利用者とは食材購入等同行している。</p>	<p>天候や希望に応じて、散歩・買い物等の外出支援が行なわれている。定期的に、行事や外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。施設にて、外出・園芸・レク委員会が設置されており、入居者の希望に応じた戸外活動を企画・検討している。また、併設のデイサービスを行き来する事が可能となっており、外部との交流が図られていると共に、ウッドデッキや駐車場にベンチ等が設置され、気軽に外の空気を楽しむ事ができるよう工夫している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ぶどう狩りに行き、家族にぶどうをお土産に買い、面会時渡す利用者もいる。事業所内の夏祭りで好みの物を買って、食べたりしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙が書ける人は、自由に書いたり、家族、友人からの電話や手紙も取り次いでいる。 電話を、かける利用者もいる。又、月に一回家族に出す事業者からの手紙に一言書いて頂いている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホール、居室に季節の花を飾ったり、季節事の壁画を利用者と製作したりしている。</p>	<p>施設は全面バリアフリーとなっており、十分な介助スペースの確保がされていると共に、キッチンや事務所の配置に工夫し、目の届きやすい設計となっており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、南向きの窓や天窓が設置され、日当たりの良い開放的な施設となっている。リビングには、ソファ・テーブル・畳スペースが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて仲の良い者同士話をしたり、食事場所での組み合わせに配慮している。 畳コーナーや、長椅子等好きな場所でくつろいで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、仏壇、CDカセット等、一人一人に合わせ好みの物、必要な物を居室に置いている。以前から使用している家具や衣類を持ち込んでいる方もいる。	入居者の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、全居室に洗面台や鍵が設置されており、プライバシーが確保されていると共に、エアコンが設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなる利用者の居室に大きく名前を書いたり、トイレ等表示したりしている。		